

平成31年度高知県公立学校教員採用候補者選考審査
筆記審査 (専門教養)

中学校 国語 高等学校 国語

受審番号	氏名
------	----

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙 (マークシート) は2枚あります。切り離さないでください。

- 3 解答用紙 (マークシート) は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。

- 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名, 受審する教科・科目, 受審種別, 受審番号を, 該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

- ※ 正しくマーク (正しい選択問題への解答及びマーク) していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

記入例

受 審 番 号	
万	千
1 ○ 0	2 ○ 1
3 ○ 0	4 ○ 1
5 ○ 1	7 ○ 2
8 ○ 3	9 ○ 2
9 ○ 4	10 ○ 3
0 ○ 5	11 ○ 4
1 ○ 5	12 ○ 5

(受審番号12345の場合)

- 4 解答は、解答用紙 (マークシート) の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対して b と解答する場合は、下の (例) のように **アの解答欄の b** をマークしてください。

(例)

ア	a	b	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	⊕
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 5 選択問題は、受審する校種の問題についてマークしてください。
- 6 筆記審査 (専門教養) が終了した後、解答用紙 (マークシート) のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



第1問 次の1～5の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つ選びなさい。

(1) これだけ練習したのだから、優勝のセイサンはある。 ア

- a 時代に合った新しい法律をセイテイする。
- b セイリヨク的にたまっていった仕事をこなした。
- c 難病を治す薬の開発にセイコウした。
- d 欲を出さずに、セイヒンに甘んじた生活を送る。
- e 新しく開発した自動車のセイノウを試してみる。

(2) 野菜のソクセイ栽培を実施して出荷時期を早めた。 イ

- a キュウソクに発達した台風が週末に九州地方に上陸した。
- b 支払い期限を過ぎたため、銀行からトクソクの通知がきた。
- c デパートの催事場で、展示ソクバイ会を行う。
- d 彼は独特な画法でその時代に大きなソクセキを残した。
- e 他県に住む親戚からソクサイで暮らしているとの電話があった。

(3) お中元にホウコウを放つ果物を贈った。 ウ

- a 懸案の事項について、相手方とホウカツ的な合意に至る。
- b この山の南側にはホウジョウな土地が広がっている。
- c 病気がカイホウへと向かい、家族の気持ちが増になった。
- d 結婚式の受付で、ホウメイ帳に記入する。
- e 外国をレキホウして、粘り強く貿易の折衝を行った。

(4) 厳しい状況だけでも、辛抱がカンヨウだ。 エ

- a 今日の講師の話は、簡にしてヨウを得た説明だった。
- b 情けヨウシヤなく、厳しい態度で臨む。
- c 人材をうまくカツヨウして、会社の業績を上げた。
- d ヨウの東西を問わず、どこでも見られる現象だ。
- e ジヨウのあるものを食べて、体力を回復する。

2 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) ふりがなの間違っている熟語を、次のa～eの中から一つ選びなさい。 オ

- a 潑刺 はつらつ b 旱魃 かんばつ c 怯懦 きょうだ d 囑託 しよくたく e 冶金 ちぎん

(2) 「勿」という字を構成する部首「勹」の名称として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 カ

- a けいがしら b すいよう c ふしづくり d つつみがまえ
e おおがい

3 次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の四字熟語とその意味の組み合わせとして適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 キ

- a 軽挙妄動 ↓ よく考えずに、軽はずみな行動をとること。
b 融通無礙 ↓ 思考や行動が自由で、とらわれることがないこと。
c 不俱戴天 ↓ 目的は異なるが、ともに力を合わせて難題に立ち向かうこと。
d 同床異夢 ↓ いっしょに行動しながら、別の考え方をしていること。
e 千篇一律 ↓ どれも同じ調子で、変化に乏しいこと。

(2) 慣用句の使い方として適切でないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 最近あまりにも忙しくて、首が回らないほど仕事が溜まってしまった。
b 文化祭での彼の演技は堂に入っていて、とても素晴らしく観客を魅了した。
c 議論が白熱し、なかなかまとまらなかったが、社長の鶴の一声で決定した。
d 長い間、一生懸命働いて、ようやく猫の額ほどの土地を買って家を建てた。
e いろいろと不備が見つかったので、計画を白紙に返したい。

(3) 「二階から目薬」と類似した意味を持つものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

ケ

- a 百発百中
- b 針小棒大
- c 当意即妙
- d 暗中模索
- e 隔靴搔痒

4 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の各文に含まれる「で」について、断定の意味を表す助動詞であるものを、次の

a ～ e の中から一つ選びなさい。

コ

- a あの人は先生である。
- b バスで旅行をする。
- c 雨になるようである。
- d 海が穏やかでよい。
- e 彼は来るそうである。

(2) 次の各文の傍線部「の」について、体言代用の用法で使われている格助詞であるものを、次の a ～ e の中から一つ選びなさい。

サ

- a 他にもたくさん面白い遊園地があるのに、なぜそこに行くの。
- b こんなに遊んでばかりいるようでは、合格するのは困難だ。
- c 九月も終わりに近づき、秋の風が吹くようになった。
- d 月の明るい夜だから、一緒に散歩に出かけよう。
- e 遊びに来た友だちに、部屋が狭いの汚いのと文句を言われた。

5 次の(1)～(4)の問いに答えなさい。

- (1) 次の説明に該当する作品として適切なものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

シ

近松門左衛門作の時代物浄瑠璃であり、正徳五年に大坂竹本座初演。明の遺臣鄭芝竜と日本人女性との間に生まれた和藤内が、大陸に渡り、明国再興のために力を尽くす物語。中国と日本を舞台にした雄大な構想が人気を呼び、十七ヶ月にわたる大当たりの興行となった。

- a 春雨物語 b 曾根崎心中 c 冥途の飛脚 d 椿説弓張月
e 国姓爺合戦

- (2) 次の説明に該当する文学者として適切な人物名を、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

ス

明治二十七(一八九四)年、福岡県に生まれる。早大予科を中退後、船員、セメント会社工務員、新聞記者、ダム工事作業員などの職を転々とする中で、ロシア思想と左翼運動に深くかかわる。その間、二度検挙され、初期の名作の多くはその獄中で書かれた。「淫売婦」と「セメント樽の中の手紙」で注目され、船員時代の過酷な経験に取材した長編『海に生くる人々』(大正十五年)で世評を確立。のち左翼への弾圧が強まると、東京から信州へ移住し、執筆活動を続けた。

- a 横光利一 b 黒島伝治 c 葉山嘉樹 d 小林多喜二 e 徳永直

(3) 次の俳人の俳風や作品に関する説明として誤っているものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

セ

- a 小林一茶は、江戸時代、文化文政期の俳人として知られ、方言・俗語を用いた生活感のある俳風を特徴とした。『幻住庵記』などの作品の他、「初時雨猿も小蓑を欲しげなり」などの句がある。
- b 山崎宗鑑は、室町・戦国時代の連歌師・俳人である。庶民的で、ときに卑俗な滑稽や機知を特色とした俳人として知られ、当時、連歌の余興的に扱われていた俳諧を整理発展させ、俳諧撰集の草分けである『犬筑波集』を編んだことでも有名である。
- c 松尾芭蕉は、江戸時代、元禄期の俳人として知られ、当初、貞門俳諧に親しんだが、後に「さび」を根本理念とした蕉風俳諧を確立し、多くの門弟を育てた。旅人として多くの名句や紀行文を残した漂泊の俳人で、『野ざらし紀行』『奥の細道』などの作品がある。
- d 松永貞徳は、江戸時代前期の俳人で、貞門俳諧の指導者として知られ、俳言（和歌・連歌には用いない俗語や漢語）や縁語・掛詞を使用し、上品で機知に富んだ言語遊戯を特徴とした。『新增犬筑波集』『俳諧御傘』などの作品がある。
- e 与謝蕪村は、江戸時代、天明期の俳人として知られ、「芭蕉へ帰れ」という蕉風復興運動を起こした。俳風は浪漫的・絵画的で「菜の花や月は東に日は西に」「春の海終日のたりのたりかな」などの句が有名である。

(4) 次の近・現代の作家に関する説明として誤っているものを、次の a～e の中から一つ選びなさい。

ソ

- a 森鷗外は、歴史小説、史伝で独自の境地を開いた明治時代の文豪であり、「即興詩人」「洪江抽斎」などの代表作がある。また、「雁」は恋を通して自らの生き方に目覚めた薄幸の女性が、偶然のためにその恋を成就できずに終わる悲しい運命を描いた作品で、鷗外の現代小説の傑作とされる。
- b 志賀直哉は、明治末期から昭和にかけて活躍した作家であり、武者小路実篤らと同人雑誌「白樺」を創刊したことで知られる。簡潔な文体と的確な描写で独自の文学を確立した。「暗夜行路」は自伝的かつ作者唯一の長編小説で、自我形成に苦悩し、自己と自然との合一という調和的世界を求める主人公、時任謙作の生き方を描いた作品である。
- c 田山花袋は、主として明治から大正にかけて活躍し、「私小説」への道を開いた自然主義作家として有名である。明治四十（一九〇七）年に発表した「蒲団」は、自身の私生活を題材に、中年作家の女弟子への恋心を大胆に告白した小説であり、自然主義文学の記念碑的作品となった。また、その後の私小説の展開にも大きな影響を与えた。
- d 中島敦は、昭和を代表する作家の一人で、中国古典の教養と知的表現力で独自の文学を構築した。近代知識人の苦悩や絶望した自我を鋭く分析し、「山月記」「李陵」などの中国古典を題材にした作品がある。また、一方で優れた短編小説も著し、「忠直卿行状記」や「恩讐の彼方に」などは高い評価を受けた。
- e 谷崎潤一郎は、明治末期から昭和にかけて活躍した作家であり、官能的な女性美を追求した耽美派に属する。耽美派の作品としては「痴人の愛」が有名であるが、一方で古典的伝統美への回帰も深めた。代表作『細雪』は昭和二十三年に刊行された長編小説で、大阪船場の旧家を舞台に、個性的な四姉妹が織りなす華やかな日常を王朝絵巻物風に描いた作品である。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(高村光太郎『緑色の太陽』のなかの「彫刻十個条」より。なお、表記は原文にしたがった。)

- 1 傍線部①「いかなる断片も意味を有する」とは、どういうことか。その内容の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 ア
- a 彫刻の断片は素描された立体感を構成している一部であるということ。
 - b 彫刻の断片は立体感を失っても原始的な喜びは残っているということ。
 - c 彫刻の断片はどれも立体感があり、いわゆる彫刻の本質を内に持っているということ。
 - d 彫刻の断片は全体に劣らない独立的な価値を持っているということ。
 - e 彫刻の断片はそれぞれが何のどの部分なのかはつきり分かるということ。

2 傍線部②「眼目」の文章中における意味として、最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

イ

- a 欠点
- b 視点
- c 接点
- d 要点
- e 論点

3 傍線部③「善き彫刻は悪しく写り、悪しき彫刻は善く写る」とあるが、その理由として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a 写真では、彫刻を人形としてしか捉えられず、彫刻の情念姿態だけをくつきりと写し出すから。
- b 写真では、彫刻の存在の強さを捉えられず、目で見て取れる彫刻の状況だけはつきり写し出すから。
- c 写真では、彫刻の繊細な技巧を捉えられず、彫刻の立体感をたんなる空間的集合として写し出すから。
- d 写真では、彫刻がもたらす真の感情を写さず、実物模擬の色彩や形だけをよく写し出すから。
- e 写真では、彫刻家の本能を写し取ることができず、表面化した方法的な企てだけを写し出すから。

4 文章中の(④)に当てはまる言葉として、最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 無機的
- b 形式的
- c 概念的
- d 剝那的
- e 擬似的

5 傍線部⑤「詩の魂は翼を持つ」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 詩の魂は牢獄のような非彫刻から抜け出す無限の力を持っているということ。
- b 詩の魂は彫刻を無視して他の芸術に向かって飛び去ってしまうということ。
- c 詩の魂は真の芸術を探して自由に飛び回ることができるということ。
- d 詩の魂は立体感には無関心だが偶然に彫刻に止まることがあるということ。
- e 詩の魂はあらゆる芸術の中にあつて何ものにも縛られないということ。

6 傍線部⑥「そのためである」とあるが、その内容の説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

カ

- a 詩の魂は彫刻的特質とは本来無関係であるということのためである。
- b 真の彫刻は変幻自在な魔法を知っているということのためである。
- c 立体感がなければ芸術は貧寒に陥るといふことのためである。
- d 芸術は詩の魂によって窮屈にならないということのためである。
- e 彫刻家が彫刻的特質と詩の魂を同時に持つことはないためである。

7 文章中の(⑦)に当てはまる言葉として、最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 人生
- b 自由
- c 彫刻
- d 本性
- e 詩魂

8 文章中の(⑧)に当てはまる言葉として、最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 万象
- b 基本
- c 革命
- d 胚胎
- e 子房

9 傍線部⑨「ただ」の品詞名として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 形容動詞
- b 名詞
- c 副詞
- d 接続詞
- e 感動詞

10 傍線部⑩「人いづくんぞ瘦すくさんや」の文章中における意味として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

コ

- a 詩魂と彫刻との関係をどうして理解しないのか。
- b 自分の技術の至らなさをごまかすことはできない。
- c 自分の詩魂の高下を隠しておくことはできない。
- d 自分の彫刻の高さ深さを測ることはできない。
- e どうして自分の行くべき道を忘れてしまうのか。

11 本文の文章構成についての説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

サ

- a 冒頭で彫刻とは何かについての筆者の主張を提示したうえで、筆者が主張する二つの点について詳述し、最後に彫刻家のあり方について述べている。
- b 冒頭で彫刻とは何かについて二つの点から問題を提起したうえで、それぞれの問題を詳細に検討し、最後に共通する問題に対する結論を述べている。
- c 冒頭で彫刻の本質について二つの点を踏まえて一般論を述べ、それを具体例を示しながら批判的に検討し、最後にそれらを統一する新たな観点を提示している。
- d 冒頭で彫刻とは何かについて明確に定義づけてから、定義した二つの点の関連性を詳述し、最後にそれまでの主張にはない新たな見解を提示している。
- e 冒頭で彫刻の本質について結論を述べてから、提示された二つの点に欠けている問題について検討し、最後に彫刻家の心について述べている。

12 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

シ

- a 彫刻における詩は文学における詩とは全く別である。
- b 彫刻における量の問題は彫刻のいのちとは関係がない。
- c 人間の立体感への渴望は常に詩への渴望に基づいている。
- d 写真は撮り方によっては彫刻の本質を写すことができる。
- e 人間の造形的本能は原始的なので彫刻の技巧や意図を妨げる。

第3問 中納言の皇女腹の姫君（以下、姫君）の噂を聞き、文を送る四位の少将（以下、少将）だったが、姫君の継母は侍女と共謀し、偽って少将を自分の実子である三の君の婿に迎える。まもなく真相を知った少将は、春の嵯峨野の遊覧の際に姫君を垣間見たことで、思慕の情を抑えかねるようになる。やがて姫君の乳母が亡くなり、姫君の頼りとなるのは乳母子の侍従だけとなった。弔問に訪れた少将は、侍従と連歌を唱和して、姫君への想いを述べる。次の文章は、それに続く場面である。本文を読んで、あとの問いに答えなさい。

かくしつゝ、過ぎ行く程に、少将、いよ／＼深くのみ思ひて、「只一くだりの御返事の^①ゆかしきなり。やすき程の事を。人の願ひ叶へ給へかし」など言ひて、

秋の夜の草葉よりなほあさましく露けかりける我が袂たもとかな

など、浅からぬ様に^②聞こえければ、「あまりに、人のつれなきも、あはれも知らぬにはべり」とて、歌の返し、^③すゝめければ、「あはれと思へども、人目のつゝまじさにこそ」とて、

朝夕に風おとづるゝ草葉より露のこぼるゝ袖を見せばや

と書きて、うち置き給ふを、侍従、取りて、

ゆかりまで袖こそ濡るれ武蔵野の露けきなかに入りそめしより

と書き添へてやりければ、少将、うち見て、^④嬉しきにも胸騒ぎて、「一言葉の御返事に、世の中の背きがたく。侍従の心のありがたさよ」とて、

^⑤武蔵野のゆかりの草の露ばかりわか紫の心ありせば

など、言ひ通はす程に、夜も明方になりければ、立ち帰らんとて、

天の原のどかに照す月かけを君もろともに見るよしもがな

となん。されども、このたびは御返事もなし。

何となく、ながめ給ひて、三の君の御方へおはして見給へば、^⑥何心なくおはするを、

いとほしくて、御物語などして、かやうに世の中のはかなきことを仰せつゞけられ、「我いかにもなりたらん時、^⑦おぼしめし出しなんや」と、少将、のたまへば、三の君、「時／＼聞こえ給ふさへ心憂くおぼゆるに、まして、さもあらば、我が身いかにせん」と、のたまふも、さすがに、是もあはれなり。明けぬれば、立ち帰らんとし給へば、「いかに」など聞こゆれば、少将、

絶えなむと思ふものから玉かづらさすがにかけてくると知らなん

と、のたまへば、三の君、いとあはれに思ひ給ひて、

絶えはてむ事ぞかなしき玉かづらくる山人のたより思へば

と、のたまへば、少将、さすがに見捨てがたく仰せけれども、明けぬれば帰り給ひて、

^⑧いつしか御文あり。

⑨ 白露をともにおき居てはかなくも秋の夜すがら明かしつるかな
かく申し給へども、また、人目もつゝましさにや、御返事もなし。

(『住吉物語』より)

侍従……姫君に仕えている侍女。姫君の乳母の娘。
ゆかり…人間的なつながりのある人や、血縁、縁者。

1 傍線部①「ゆかしきなり」、⑥「何心なくおはするを」、⑧「いつしか」の解釈として
最も適切なものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

① 「ゆかしきなり」

ア

- a 好ましいのです
- b 見たいのです
- c ありがたいのです
- d なつかしいのです
- e 渡したいのです

⑥ 「何心なくおはするを」

イ

- a どうして不機嫌でいらっしやるのかを
- b 他のことを考えていらっしやるのを
- c 無邪気なご様子でいらっしやるのを
- d 献身的に振る舞っていらっしやるのを
- e 何かに没頭していらっしやるのを

⑧ 「いつしか」

ウ

- a すぐに
- b 知らないうちに
- c そのうち
- d いつのことだったか
- e いつまでたっても

2 傍線部②「聞こえ」、③「すゝめ」の主語の組み合わせとして正しいものを、次の

a～eから一つ選びなさい。

エ

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| a | ② | 少将 | ③ | 姫君 |
| b | ② | 姫君 | ③ | 少将 |
| c | ② | 姫君 | ③ | 侍従 |
| d | ② | 侍従 | ③ | 姫君 |
| e | ② | 少将 | ③ | 侍従 |

3 傍線部④「嬉しさにも胸騒ぎで」とあるが、誰のどのような心情か。説明したものと

して、最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

オ

- a 少将からの返事を内心嬉しく思うと同時に、二人の関係が露見することに不安を感じている「姫君」の心情。
- b 侍従の気遣いには感謝の念を抱く一方で、姫君を諦めざるを得ない運命を痛感している「少将」の心情。
- c 少将の想いに喜びを感じるが、姫君との主従関係から受け入れることをためらっている「侍従」の心情。
- d 姫君から返事がもたらえたことに感激する一方で、そのことで新たな執着心がわき上がっている「少将」の心情。
- e 侍従の助言をありがたく思うものの、外聞が気になって少将との関係に踏み出せないでいる「姫君」の心情。

4 傍線部⑤「武蔵野のゆかりの草の露ばかりわか紫の心ありせば」について、この歌を詠んだ人物の心情として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

力

- a せめて、侍従が自分を気遣ってくれるくらい、姫君も自分のことを想っていてくれればいいのにと嘆いている。
- b 姫君を想っていたはずが、侍従のことを考えていることが多いことに気づき、身の振り方を思い悩んでいる。
- c 姫君の心を自分のものになりたいが、今、自分の手元にあるのは草の露と涙で濡れたこの袂だけだと悲しんでいる。
- d 草場の露の話題だけが姫君と自分の心をつなぐよすがであるので、そのわずかな希望にすがりたいと考えている。
- e 自分が姫君を想う気持ちの強さと同じくらい、姫君も自分のことを想っていて欲しいと願っている。

5 傍線部⑦「おぼしめし出しなんや」の品詞の説明として正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

キ

- a 動詞＋助動詞＋動詞＋助動詞＋助詞
- b 動詞＋動詞＋助動詞＋助動詞＋助詞
- c 名詞＋動詞＋助詞＋助詞
- d 名詞＋動詞＋助動詞＋助詞＋助詞
- e 動詞＋助動詞＋助動詞＋助詞＋助詞

6 傍線部⑨「白露をともしおき居てはかなくも秋の夜すがら明かしつるかな」は、「誰が」「誰に」どのようなことを伝える歌か。説明として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 三の君が、少将に、秋の夜をともし過ぎした嬉しさと朝の一人の寂しさを伝える歌。
- b 少将が、姫君に、昨夜一緒に過ごせなかったことを辛く思っていることを伝える歌。
- c 三の君が、少将に、いつもと違う昨夜の少将の様子を不安に思う気持ちを伝える歌。
- d 姫君が、少将に、昨夜ともし過ぎたことに、まだ戸惑っていることを伝える歌。
- e 侍従が、少将に、少将が帰ったあと、寂しそうにしていた姫君の様子を伝える歌。

7 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ケ

- a 少将は、姫君にたびたび歌を贈るが、姫君は一度も返歌を詠まなかったため、侍従が気を遣って少将を慰める歌を贈った。
- b 侍従は少将への同情から、姫君が詠んだ歌に添えて、自分が詠んだ歌も姫君が詠んだ歌と偽って、少将に届けた。
- c 少将は、自分が姿を消すことをほのめかして三の君の反応を見るが、三の君は少将を慕う一途な気持ちを少将に伝えた。
- d 少将は、姫君、三の君、侍従の三人の女性に求愛するが、その優柔不断さのせいで、誰からも返事が来なくなった。
- e 何も知らない三の君のけなげな様子に心打たれた少将は、姫君への思いを断ち切り、三の君を大切にしようと考えた。

8 本文は、鎌倉時代初期の成立とされる『住吉物語』という作品の一部である。鎌倉時代初期以後に成立した作品のみの組み合わせとして正しいものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

コ

- a 堤中納言物語・宇治拾遺物語・平家物語
- b 夜の寝覚・今昔物語集・十訓抄
- c 狭衣物語・讃岐典侍日記・新古今和歌集
- d 平治物語・古今著聞集・千載和歌集
- e とはすがたり・愚管抄・古今著聞集

第4問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。ただし、設問の都合上、訓点を省いた部分がある。

商君者、衛之諸庶孽子也。名鞅、姓公孫氏。其祖本姬姓也。鞅少好刑名之學、事魏相公叔痤、爲中庶子。公叔痤知其賢、^①未及進。會痤病。魏惠王親往問病。曰、公叔病。有^②如不可諱、將柰社稷何。公叔曰、痤之中庶子公孫鞅、年雖少有奇才。願王舉國而聽之。^③王嘿然。王且去。痤屏人言曰、王即不聽用鞅、^④必殺之、無令出境。王許諾而去。公叔痤召鞅、^⑤謝曰、今者、王問可以爲相者。我言若。王色不許我。我方先君後臣。因謂王。即弗用鞅、當殺之。王許我。汝可疾去矣。且見禽。鞅曰、^⑦彼王不能用君之言任臣、又安能用君之言殺臣乎。卒不去。惠王既去、而謂左右曰、公叔病甚。悲乎、欲令寡人以國聽公孫鞅也。豈不悖哉。

(『史記』「商君列傳第八」より)

商君……鞅は秦によつて商に封ぜられたので商君という。

庶孽子……庶孽は妾腹の子のこと。

魏相……戦国時代の魏の国の大臣。

中庶子……本来公孫に仕える職であるが当時は大夫の家にも置かれた。舍人よりは身分が高い。

不可諱……人の避け通ることのできないもの。すなわち、死を指す。

社稷……社は土地の神、稷は穀物の神。転じて宗廟または国家を指す。

1 傍線部①「未_レ及_レ進」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ア

- a 魏王は鞅の推薦を必ずしも望んではいなかった。
- b まだ魏王に鞅を推薦する機会がなかった。
- c 魏王に鞅を推薦することはためらわれた。
- d まだ魏王に鞅を推薦するような立場ではなかった。
- e 魏王から鞅を推薦するまでもないと断られた。

2 傍線部②「將_レ柰_三社稷何_一」の解釈として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

イ

- a 今後の魏の国家運営はどのようになるかわからないだろう。
- b 現在の魏の国の政治は一体どのような状態なのだろうか。
- c これからもできるだけ魏の国家を運営してほしい。
- d どうしていつまでも魏の国家の行く末を心配しなければならぬのか。
- e これから魏の国家をどのように治めていけばよいのだろうか。

3 傍線部③「王嘿然」とあるのは、どのような理由があるからそのような態度を国王がとったのか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

- a 公孫鞅が国の政治のあり様を婉曲的に批判したから。
- b 公叔痤が話した内容に心から賛同し納得したから。
- c 公孫鞅の言い方が国王に対する礼を失していたから。
- d 公叔痤の言うことに素直に同意できなかったから。
- e 公孫鞅の言い方があまりに唐突で理解できなかったから。

4 傍線部④「必殺之、無令出境」は公叔痤が魏王に向かって言った言葉である。公叔痤がこのような発言をした理由として最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

エ

- a 用いられないことを不満に思う公孫鞅が反乱を起こすことを警戒したため。
- b 国王に対して従順ではない公孫鞅の墓はわざわざ作る必要がないため。
- c 公孫鞅の溢れるほどの才を逆に他国が利用することを恐れたため。
- d 魏に従わないのならば、公孫鞅を謀略にかけることもしかたないため。
- e 公孫鞅が他国に逃亡し、魏王の命令を無視することを避けるため。

5 傍線部⑤「謝曰」とあるが、この発言はどこからどこまでを指すのか。最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 オ

- a 今者ゝ爲相者。
- b 今者ゝ不許我。
- c 今者ゝ因謂王。
- d 今者ゝ王許我。
- e 今者ゝ且見禽。

6 傍線部⑥は「おうもつてしようとなすべきものをとふ」と読む。返り点の正しい文として最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選びなさい。 カ

- a 王問_下可以爲_上相者
- b 王問_レ可以爲_レ相者
- c 王問_三可以爲_レ相者_一
- d 王問_三可以爲_レ相者_一
- e 王問_二可以爲_レ相者_一

7 傍線部⑦「彼王不能用君之言任臣、又安能用君之言殺臣乎」は公孫鞅が公叔痤に向かつて発言した内容であり、文脈上、「AがないのにBがあるはずがない」という意味になる。AとBの内容を説明したものととして最も適切なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。 キ

- a A 魏王が公孫鞅を信頼すること
- B 魏王が公叔痤を宰相の座から降ろすこと
- b A 魏王が公叔痤を宰相の座から降ろすこと
- B 魏王が公孫鞅を宰相にすること
- c A 魏王が公叔痤の進言を聞くこと
- B 魏王が公孫鞅を登用すること
- d A 魏王が公孫鞅を登用すること
- B 魏王が公孫鞅を殺すこと
- e A 魏王が公叔痤に宰相の地位に留まってほしいこと
- B 魏王が公叔痤以外を宰相に登用しようとする事

8 本文の内容に合致するものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

ク

- a 魏の宰相、公叔痤が臣下としての秩序を考えた時、まず最初に自らの後任推挙の話をするべきなのは魏の国王だと思った。
- b 魏の恵王は、公叔痤が公孫鞅を宰相に推した話を聞き、病のために心が乱れたから、そのようなことを言うのだと思った。
- c 公孫鞅は、魏の宰相である公叔痤の発言を聞き、国王への説明と矛盾することには不信感があつたので、出国しなかつた。
- d 魏の宰相、公叔痤が魏王に対して話す内容と公孫鞅に対して話す内容を変えたのは、魏国の将来を考えたからである。
- e 魏の恵王は、公叔痤が魏の国にとって得難い宰相であつたので、何とか快癒してほしいと国を挙げて病の治療に努めた。

(選択問題 中学校)

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)と(2)は、平成二十九年三月告示の中学校学習指導要領 国語における「第1目標」と「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」に示されている事柄である。
 ア・イ に該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

(1) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重して ア。

- a 社会生活に必要な知識や技能を身に付ける
- b その能力の向上を図る態度を養う
- c 言語文化に親しむことができるようにする
- d その特質を理解するための素養を高める
- e 社会生活に必要な能力の向上を図る

(2) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主體的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、
 イ、言葉の特徴や使い方を理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

- a 思考力や想像力、そして言葉による見方や考え方を働かせ
- b 伝え合う力、思考力や想像力を養い、学習活動を通して
- c 他教科等との関連を考慮しながら、言語活動を通して
- d 学習活動を通して、ものの見方や考え方を働かせ
- e 言葉による見方や考え方を働かせ、言語活動を通して

2 次の(1)～(3)は、平成二十九年七月に刊行された『中学校学習指導要領解説 国語編』に示されている「内容」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、第3学年の内容1「知識及び技能」(2)情報の扱い方に関する事項の「情報の整理」に関する解説の一部である。文章中の **ウ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

情報化が進展し様々な情報が氾濫している現代社会においては、情報の信頼性を十分吟味する必要がある。情報を受信する際にも発信する際にも、**ウ** などの情報の信頼性について確かめることが重要である。

- a その情報の事実関係や裏付ける根拠、一次情報の発信元や発信時期
- b その情報の出典や具体的な内容、一次情報の発信元や発信時期
- c その情報の出典や具体的な内容、一次情報と二次情報との関連性
- d その情報の事実関係とそれを裏付ける根拠、一次情報と二次情報との関連性
- e その情報の事実関係とそれらを裏付ける情報源、一次情報の発信元や発信方法

(2) 次の文章は、第2学年の内容2「思考力、判断力、表現力等」B書くことの「考えの形成、記述」に関する解説の一部である。文章中の **エ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

根拠の適切さを考えるとは、**エ** を検討することであり、その根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであること、自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていることなどが、適切さを考える観点となる。

- a 書こうとする内容が自分の思想を支えるものであるかどうか
- b 表現しようとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうか
- c 書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうか
- d 表現しようとする内容が自分の考えを支えるものであるかどうか
- e 表現しようとする根拠が自分の思想を支えるものであるかどうか

- (3) 次の文章は、第1学年の内容2〔思考力、判断力、表現力等〕C読むことの「言語活動例 ウ」に関する解説の一部である。文章中の 中の a～e の中から一つ選びなさい。

多様な情報を得て、考えるとは、、それらを基に自分の考えをもつことである。そのため、多様な情報を得ることが必要となるテーマを設定することを想定している。

まとめた資料については、印刷したり掲示したり、それを使って報告したりすることが考えられる。

なお、学校図書館や地域の図書館などの利用に当たっては、小学校において、本などの種類や配置、探し方についての指導が行われていることを踏まえて利用方法等を確認することが必要である。

- a 文章を批判的に読みながら、ものの見方や考え方を理解し
- b 資料や機器などを用い情報を集め
- c コンピュータや情報通信ネットワークを活用し
- d 複数の資料から情報を取捨選択し
- e 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し

(選択問題 高等学校)

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)は、平成二十一年三月告示の高等学校学習指導要領「国語総合」の「3 内容の取扱い」、「国語表現」の「2 内容」及び「現代文B」の「1 目標」に示されている事柄である。ア～ウに該当するものを、あとのa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、(1)は「国語総合」、(2)は「国語表現」、(3)は「現代文B」に示されている事柄である。

(1) 書くことを主とする指導には **ア** 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること。

a	10	～	20
b	20	～	30
c	30	～	40
d	10	～	30
e	20	～	40

(2) 話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料を、**イ** こと。

- a インターネットも活用して表現する
- b 情報と情報との関係を明らかにしながら編集する
- c 引用の仕方や出典の示し方などに注意して表現する
- d コンピュータなどのICT機器を活用して編集する
- e 図表や画像なども用いて編集する

(3) 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、**ウ** ことによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

- a 言語感覚を磨く
- b 進んで読書する
- c 主体的に学ぶ
- d 自ら考え、行動する
- e お互いに伝え合う

2 次の(1)と(2)は、平成二十二年六月に刊行された『高等学校学習指導要領解説 国語編』における「第1節 国語総合」及び「第6節 古典B」に関する問題である。それぞれの問いに答えなさい。

(1) 次の文章は、「第1節 国語総合」の「3 内容」に関する解説の一部である。文章中の **工** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

「ものの見方、感じ方、考え方を豊かに」するためには、**工**、思索したりして、文章を読み味わうことが大切である。それによって生徒は自らの心情を豊かにし、思考力や想像力を伸ばし、人間、社会、自然などに対して自分なりの考えをもつようになっていく。

- a 書き手の意図をとらえ、共感したり、疑問に思ったり
- b 書き手の意図をとらえ、批評したり、疑問に思ったり
- c 書き手の意図をとらえ、共感したり、想像したり
- d 作品の主題をとらえ、批評したり、疑問に思ったり
- e 作品の主題をとらえ、共感したり、批評したり

(2) 次の文章は、「第6節 古典B」の「4 内容の取扱い」に関する解説の一部である。文章中の **オ** に該当するものを、あとのa～eの中から一つ選びなさい。

「文語文法の指導は読むことの学習に即して行」うという考え方は従前と同様であり、文語文法の指導は、文章の読みを確かなものにし、深く読み味わったりするために「行」という原則的な考えをここで明示している。

「必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにする」としたのは、文語文法がある程度まとまった形で学ぶことを通して、一層古典に対する興味・関心を広げ、そのことが読むことの学習にも生かされるよう配慮したものである。そこで、

オ を適切に判断するとともに、文語文法の暗記に偏るなど、興味・関心を広げることが軽視した指導に陥らないような配慮と工夫をする必要がある。

- a 生徒個々の興味・関心に応じて、学習の必要性の有無
- b 生徒の理解の度合いに応じて、学習の必要性の有無
- c 学習のねらいに応じて、そのような学習の必要性の有無
- d 学習の到達度に応じて、そのような学習の必要性の有無
- e 生徒の実態に応じて、そのような学習の必要性の有無

